

旧小石原小学校の利活用を目指した 住民参加による地域活性化計画の策定プロセス

福岡大学工学部社会デザイン工学科 学生会員 ○櫻井彩香 正会員 柴田久, 石橋知也
福岡大学大学院工学研究科 学生会員 登田浩司
福岡大学工学部社会デザイン工学科 非会員 原田麻里

1. はじめに

平成 24 年に文部科学省より報告された廃校施設等活用状況実態調査によると、「地域との協議等」により地域住民からの施設利用に関する意向聴取を行っている割合は 13.9%に留まっており、住民参加型の検討を行おうとする考えはあまりうかがえない。近年、各自治体による廃校の有効活用が求められているなか、福岡県朝倉郡東峰村は平成 26 年に廃校施設の利活用による地域活性化を目指した住民参加型事業（以下、本事業）を開始した。同村は、人口減少問題を抱えており、村の活性化による過疎化対策は急務とされる。また鹿による獣害が増大しており村は解決策の検討を模索している。

本研究では、福岡県朝倉郡東峰村の旧小石原小学校（以下、旧小学校）を対象とした活性化事業のプロセスと具体の提案を詳述すると共に、利活用を検討する際の要点と本事業で得られた成果を示すことを目的とする。

2. プロジェクトの概要

本事業では、施設の検討を行うにあたって委員会を設け、ワークショップ（以下、WS）を行い合意形成を図っている。平成26年度は基本構想段階であり、最終目標は旧小学校の利用方法、用途、利用者、運営方法等を定めた「プロジェクト委員会検討結果報告書」を作成することである。本事業の関係主体は、東峰村役場ダム対策室（以下、事務局）、全体コーディネーター、福岡大学景観まちづくり研究室（以下、研究室）、住民により構成されており、事務局は事業に関わる情報、資料提供並びに日程調整、全体コーディネーターと研究室は利活用へのアドバイス、成果品の作成、旧小学校改装における提案等を行っている。

3. 東峰村における事業プロセス

本事業では、現地踏査による村内の既存施設の把握、委員会によるWS、廃校利用における先行事例の視察等が実施された（表-1）。WSでは、村の魅力や課題点の共有、さらに「住民自身がができること」を抽出することで利活用のイメージを膨らませることができた。

4. 基本構想案の提案

村全体の資源を生かした活性化を目指すことを念頭に

置き、旧小学校利活用の提案がなされた。その要点を以下に示す（図-1）

(1)食肉加工施設

東峰村の鹿による民有地への被害や森林被害の解決に繋がり、また鹿肉を新たな東峰村のブランドとして外部に売り出す仕組みづくりを行うことで、村の問題解決と地域活性化を目指した。

(2)シェアオフィス

東峰村特有の産業に興味を持つ企業や人を集め、新たなモノを生み出す拠点にする。シェアオフィス利用者や

表-1 平成 26 年度事業プロセス

日付	内容	成果（意見）・決定事項
5/13 協議①	・東峰村村長を含めプロジェクトの目的、東峰村の問題点について共有 ・委員会の講師、スタッフの提案	・講師として久留米大学の島中准教授、スタッフとしてメディア事業から1名が委員会のメンバーに加わることが決定した
5/22 協議② 現地踏査	【打ち合わせ】 ・プロジェクトの体制や委員会の目的、全体計画の流れについて共有 【現地踏査】 ・本事業の対象地の視察	【打ち合わせ】 ・年間計画について先行事例研修の時期が変更になった ・委員会にてワークショップを実施することが決定した 【現地踏査】 ・廃校のイメージとは大きく異なり、非常に綺麗な校舎であった ・実際に小学校で利用されていた机や椅子、実験器具等が残っていた
5/28 第1回委員会	・委員会の目的と年間計画の共有 ・プロジェクト委員及び講師紹介 ・講師による講話	・各委員、講師、事務局の位置付けが明確化した ・久留米大学の島中准教授からスペインツーリズムの多様性について、福岡大学の柴田教授から公益施設のデザインや住民参加型まちづくりについての講話がなされ、活性化における重要なポイントについて全体で共有した
6/25 第2回委員会 WS① 現地踏査	【第2回委員会】 ・第1回委員会の確認 ・WS「東峰村の地域資源を探るパート1」 東峰村の魅力や課題点の把握 【現地踏査】 ・村内にある道の駅の視察	【第2回委員会】 ・東峰村の魅力や課題点について共有 ・窓元が多い/村内には魅力あるものが多い/鹿が多い/日用品が近くで買えない/食事処の時間が限られている/宿泊施設をオススメできない 【現地踏査】 ・東峰村の特産品を買うことができる農産物産館と、多くの焼物が販売してある焼物産館があった ・情報コーナーがあり観光パンフレット等が置かれていた
7/22 第3回委員会 WS② 現地踏査	【第3回委員会】 ・第2回委員会の確認 ・WS「東峰村の地域資源を探るパート2」 利用者、施設の活用方法の検討 【現地踏査】 ・村内にある宿泊施設「ほうしゅ楽舎」 「東峰テレビ局」の視察	【第3回委員会】 ・旧小石原小学校の活用方法について共有 ・求めるもの 子どもが遊ぶところ/鹿をつかった料理/カフェ/ふらっと立ち寄れる場所/シェアオフィス/ファーマーズマーケット/イベントができる場所/体験施設/道の駅と差別化できる施設 【現地踏査】 ・村内には既に廃校利用されている宿泊施設が存在することが確認出来た
9/11 先行事例視察	・先行事例視察 ①きくちふるさと水源交流館 ②阿蘇フォークススクール	・体験講師や食事の提供など地元の人との協力のものと運営が行われている ・冬場の利用者が少ないため、冬場対策の必要性がある ・持続可能性の重要さを確認 →考えないといけないポイントが把握できた
9/16 第4回委員会 WS③	・第3回委員会の確認 ・現地視察の結果報告 ①きくちふるさと水源交流館 ②阿蘇フォークススクール ・WS「活性化の方向性を具体的に考える」 本人が出来ることやしたいことを実現させるための解決策の検討	・「いつでも気軽に立ち寄れる場所」「東峰村らしさの発信の拠点」「多様な世代が集まる場所」「暮らしを支える場所」の4つがコンセプトとして挙がった ・住民自身が「できること」 お料理教室/林業体験/陶芸体験/鹿に関する命の講話 ビザ寮体験/シェアオフィスとして利用する/地元ガイド クリエイターズマーケット/ネット環境のアップグレード
10/29 協議③	・第4回委員会の意見の共有 ・施設基本構想案の叩き台の検討 ・ジビエ料理の提供について検討 ・第5回委員会のWSの内容について検討	・NPO団体のような組織が運営する ・様々なイベントができる可変性のあるカフェをつくる ・食肉加工施設、屠殺場をつくる ・ファーマーズにとらわれない展示販売スペースにする ・焼物体験は行わない ・案内所をつくる ・プールについてはプールとしてのそのままの利用はしない ・体育館は利用を促すような場所にする
11/18 第5回委員会 WS④	・第4回委員会の意見の確認 ・施設基本構想案の叩き台の提案 ・WS「旧小石原小学校の活用を具体的に考える」 計画案の提案について意見の抽出	・計画案の提案について意見は共有 ・カフェ>定期的イベントを開催する/焼物の器を使う ・食肉加工施設>加工した鹿肉を村全体で利用してもらう ・体験施設>団体でも利用できる場所がほしい ・〇〇〇マーケット>日替わり店長を設ける ・日用品や加工品等売場/イベント等がないと来ない ・シェアオフィス>図書室やファブラボを併設し、交流できる環境をつくる/シェアオフィスのコンセプトを明確にしておく ・宿泊棟>シェアオフィス利用者向けと旅行者向けの使い分けを考へる/食事付き賃貸を設け、カフェを連携を行う ・その他>事務所を2階の案内所側に設置する
12/17 第6回委員会	・委員会のプロセスについて確認 ・基本構想案の提案 ・ファブラボについての説明 ・提案について委員から意見を聴取	・第1～5回委員会の意見について委員全員で確認 ・シェアオフィス利用者と作家との交流や共同の取り組みが生まれるような工夫を行うことを構想案に新たに記載する ・屋上の利用の仕方については来年度検討を行う

小石原小学校 施設基本構想案

各階のイメージ

1階：人が集まり多様な活動を行う賑やかな空間
2階：様々なスキルを持った人たちが集まり
静かに仕事ができる作業空間

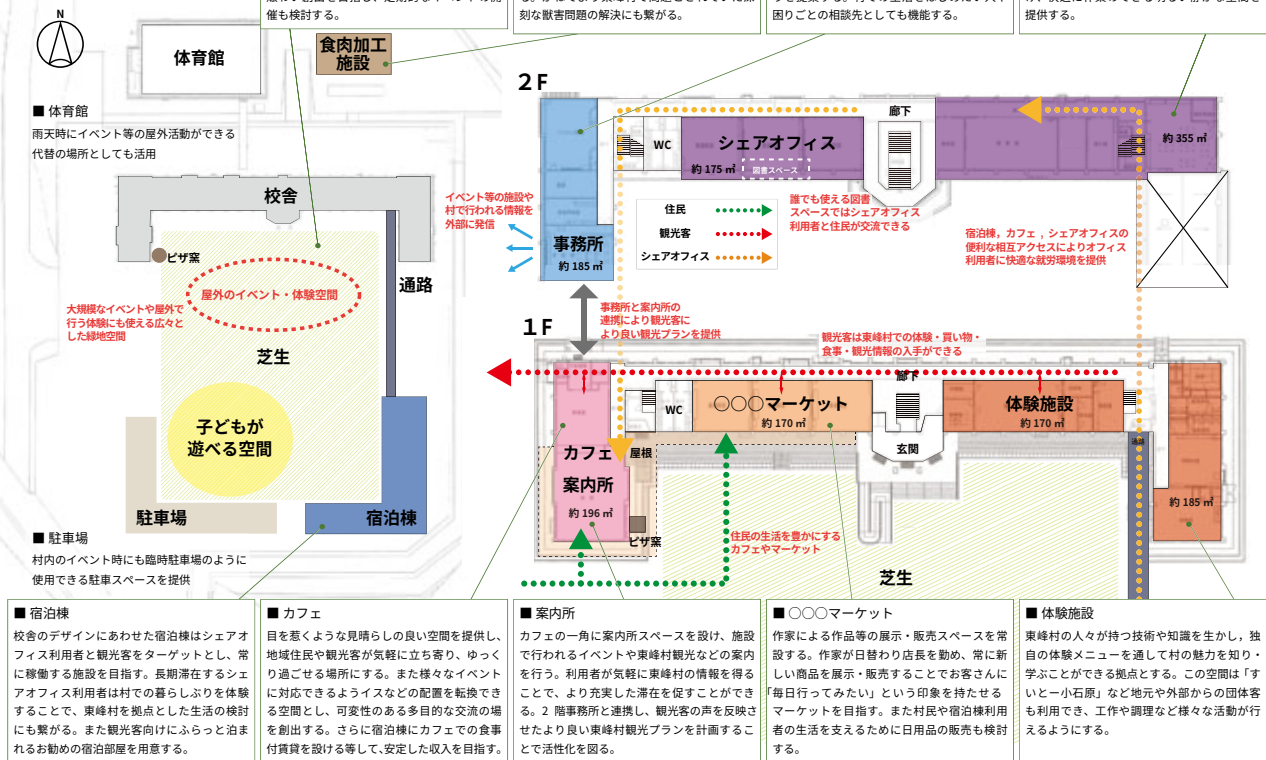


図-1 施設基本構想案

村民間での交流が出来る様々な仕組みやきっかけ作りを行い、新しい価値や可能性を生み出す拠点を狙う。また誰でも使えるファブラボ⁽¹⁾を併設し、村民それぞれが持っているものづくりのノウハウを共有する場を設ける。

(3) 宿泊棟

観光客とシェアオフィス利用者を主な対象とし、常に稼働する施設を目指す。長期滞在する利用者は村での暮らしを体験することで、東峰村への移住の検討に繋がる。さらに移住に向けた空き家紹介などを行う。

(4) カフェ

地元住民や観光客が気軽に立ち寄り、ゆっくり過ごせる場所を提供する。東峰村の焼物を用いて料理の提供を行い、東峰村の魅力を気軽に知るきっかけづくりを行う。さらに案内所を併設することで東峰村での観光の活性化を目指し、回遊性の向上を図る。

(5) マーケット

作家による作品等の展示・販売スペースを常設する。村民や宿泊棟利用者の生活を支えるために日用品の販売も検討する。また村内の既存施設で行われる販売との差別化を考え、それぞれの施設を生かす提案とする。

(6) 体験施設

実際に住民が講師を務めることが出来る体験や、村内で既に行われている体験と差別化を図った東峰村ならで

はの体験を数多く取り揃える。

5. まとめ

本事業における旧小学校の利活用を検討する際の要点と住民参加型による成果として以下の点が挙げられる。

- ① 村内の既存施設との差別化や、東峰村の魅力を得ることができる仕組みづくりにより、波及効果が期待できる施設の提案を行った。さらに多様な用途を併せもつ施設を設けることで、様々な目的を持った人が集まる日常的な賑わいの創出を目指した。
- ② 住民参加型の事業を推進するための工夫として、WSの成果物や図面を用いた情報の「見える化」により合意形成を進めた。さらに「住民自身ができること」の議論等を経て、施設供用開始後も継続して住民が維持管理・運営等に携わることの出来る土台の構築と責任感の付与を図った。
- ③ 単に活性化を図るための提案にするのではなく、併せて鹿による獣害や人口減少など村の抱える本質的な問題の解決に繋がる施設や機能を織り込んだ提案を住民と共に導くことができた。

参考文献

1) 文部科学省HP：廃校施設等活用状況実態調査

補注

(1) ファブラボ：デジタル・ファブリケーション（パソコン制御のデジタル工作機械）を揃え、市民が発明を起こすことを目的とした地域工房の略称（総務省HP）